
戦争体験を聞いた事がありますか？

芹沢 忍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

戦争体験を聞いた事がありますか？

【著者名】

N1590Z

【作者名】

芹沢 忍

【あらすじ】

エッセイかな。テレビで「家族から戦争の話を聞いたことがありますか」ってのをやっていたので、じゃあ、自分が聞いた話を覚えている限り書いてみよつと思い書いてみました。

(前書き)

小説ではありません。ヒッセイです。自分が戦争に関して聞いたことを書いてみました。行きあたりばつたりな文章になつていいかもしませんが、お付き合い頂ければ幸いです。

「ニュースで「貴方は家族に戦争の話を聞いたことがありますか」という事を言つていました。見てみると自分よりは若干年下のアナウンサーが今まで全く聞いたことが無いと、高齢の親戚に話を聴きに行くという内容。「（亡くなつた）叔父さんがいれば、もつと話しが聞けたのにねえ」とうアナウンサーの母親らしき方のコメントを聞いて思わず首を傾げてしましました。もしかして、戦争の話しを親族から聞いていない方が多数派なのかい？自分は幼い時分より親戚は勿論、会社でも聞く機会があつたので、聞いていないという言葉が衝撃的でした。

「え、マジですかい？」

テレビを前に、じやあ覚えてる限りだけど、人から聞いた話を記しどとかないといけないかなあ、何て思つたりしました。で、ここに書いてみる次第です。

一番初めの記憶は、父方の祖父宅。小学生の低学年じゃなかつたかなあ。叔父の部屋に入り込んで昔のアルバムを見せてもらつてました。セピア色の写真は味わいがあつて、幼い自分の興味を思い切り引つ張るには充分。

その中に格好良い写真がありました。写真館で撮つたらしい男性の肖像。真っ白な上下。詰め襟に帽子に剣。見入つていると、叔父が自分の兄だと話してくれました。それなら何で自分は会つた事が無いのかと問うたんです。そうしたら、戦争に行つて帰つて来なかつたという答え。

当時、母に連れられ、原爆写真展に行つたりしていたので、戦争は漠然と怖いものと認識してはいたと思います。ただね、惨い写真は怖いと感じても実感としては感じられなかつたんです。

それがいきなり身近な話になりました。今思うと、出征直前の

写真だったのでしょうか。覚えていいる限りでは帝国海軍将校の第一種軍装だと思います。それだけ焼きついている叔父の姿です。

話は続きました。実は兄弟は六人いて、三人は戦争に取られたと。海が近かつたので三人とも海軍。遺体は戻らなかつたと言つてました。戦争は遠いものと思っていたので、大きな衝撃を受けたものです。この歳になつても記憶が鮮明ですもの。父は戦後の生まれ亡くなつた叔父たちとは歳が十以上離れていたはすです。戦争がそのままその歳の差なんですね。

その後からです。嫌々だつた戦争の記録をしつかりと見るようになつたのは。

母方の祖母からは、疎開前に空襲に合つたという話を聞いています。怖くて逃げていたこと。飛行機の音が怖ろしいこと。無事に生き残れたことに対する感謝。空襲体験があつたからでしょう。元氣で暮らすこと、働くこと、食事が出来ることを、常に感謝しています。そして、何かあると「幸せだなあ」と言つるのが口癖のような人です。

戦争のシーンや、戦争という言葉を聞くと、「一度とあつてはいけないことだ」「今が平和で幸せだ」と言います。ドラマの中の空襲シーン。飛行機の音を聞くと「嫌だ嫌だ」ととても辛そうにします。

その姿を見るといかに深い傷が残つているんだろうかと思うのです。

社会人になつてからは、会社でバイトの子が「祖母が被爆者なんで、自分は被爆三世なんですね」と。何でそんな話になつたのか覚えていません。彼女がお祖母さんから聞いた原爆の話。広島の爆心地からは遠く離れていたけれども、凄い騒ぎだつたとか、近くの人が町から帰つてこないという話をされていたとか。実際にお祖母さんは爆心地近くまで行つて被爆されたようです。お母さんは一世。彼女を産む際には悩んだそうです。障害が出るかもしれないからと。だから生まれて無かつたかもしれないんですと、さらつ

と笑つて語つてました。これは体験談ですが、戦争の実体験というよりは戦争の傷跡の話しだすね。

最後に会社の仕事関係でお付き合いがあつた某漫画家さん。亡くなる前に良く東京大空襲の実体験を語つてくださいました。焼夷弾が一メートルも離れていない目の前に落ちたと。幸運にも不発弾で命拾いをしたと、当時を思い浮かべているのか、暗い眼差しで語つて下さいました。もう少しづれていたら即死。不発弾でなければやはり即死。命を拾つたと思ったそうです。それから生き方を変え、好き勝手やつてたらこうなつたと笑つていましたね。

聞いた話しさは短いですが、実際に体験されている方が語ると空気が変わります。一気に緊迫した状態になります。記録として残すのも意味はありますが、あの語りの空気は残らない。本当は、そういった空気も感じられるような表現で残したいんですが、難しいですね。映像でも多分再現出来ないのではないか。

当時の記憶を持つた方々は徐々に旅立つてしまっています。せめて聞けるうちに話を聞いておいてもらいたい。出来れば歳が若い人程。幼いうちに話を聞いて、心の片隅にそつと本のようにつけておいまらいたいと思います。そして時々その本を開いて欲しい。思い出した時でいいので。

話を聞いた人たちは戦争が悪いとも、どこが悪いとも語つていません。怖ろしいことと死について淡々と語ることが多いです。根源的な恐怖。一度とこんなことには会いたくないといったことをひしひしと感じるので。最もな事ですが、大切なことだと思います。つたない文章ですが、思つた事を一息に書き付けてみました。

(後書き)

とにかく勢いで書いてしました。ちょいと頭の端にでも引っ掛かってくれればうれしいです。多分、亡くなつた叔父たちも喜びます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1590n/>

戦争体験を聞いた事がありますか？

2010年10月8日13時35分発行